



# 芦屋「九条の会」ニュース

発行責任者：片岡 隆 連絡先 090-7118-2312  
<http://ashiya9.web.fc2.com/>

## 安倍・稲田氏らは自衛隊員と 国民をどこへ連れていくのか

### ～「死は鴻毛より軽しと心得よ」の声が聞こえる～

「トランプ・ショック」関連報道がメディアを席卷しています。直感ですが、トランプ政権と安倍政権・「日本維新」とは共通点が多く親和性が強いように思います（インタビューに答える安倍・稲田氏の顔・声は生き生き）。トランプ政権分析は重要ですが、「ボケ・土人発言」と松井大阪府知事や鶴保沖縄・北方担当相らの暴言・妄言、インドへの原発輸出、TPPなど重大問題が目眩ましされているような気がします。

安保法制具現化の差し迫る危険性は、南スーダン派遣自衛隊への「駆け付け警護」などの新任務付与を11月15日に閣議決定したことです。大統領派と副大統領派の和平合意は崩壊し、アムネスティ・インターナショナルの調査報告書でも戦闘・内戦状態であることは明らかです。「PKO参加5原則」はすでに適合しません。11月1日の国連報告書はこの事実をさらに明確にし、また、国連の特別顧問が「全面的な民族紛争になる恐れがある。民族間の暴力行為が激しくなり、ジェノサイドとなる危険がある」と警告しました。

ところが、稲田防衛大臣は、「武器を使用して人が亡くなる、さらに物が損壊するという事態は生じましたが、それは法的な意味における戦闘行為ではなく衝突であるという風に思います」。続いて、安倍首相は、「南スーダンは我々が今ここにいる永田町と比べればですね、はるかに危険な場所であってですね、我々はリスクを否定したことは全くない」との国会答弁。安倍・稲田氏の答弁は、自衛隊の指揮監督権者として、隊員の生命を預かるものとして無責任極まりないものです。「死は鴻毛より軽しと心得よ」と「すめらみことは、戦いにおおみづからは出でまさね」が想起されます。

安倍・稲田氏らは現地の危険な状況をよく承知しているはず。撤退しかないところ、逆に何を狙って戦傷者発生必至の新任務を与えるのでしょうか。自衛隊員の死傷者発生→敵対勢力への怒りと「自衛隊員の安全を守れ」への世論誘導・組織→さらなる装備強化・重装備化による報復と「積極的」任務展開→「殺し殺される」自衛隊の常態化、戦争をする国へ、というシナリオを描いているのではないのでしょうか。6月の「11周年記念集会」での白井聡さんの言葉が思い出されます。（文責 久保富三夫）



PKO参加5原則とは、日本がPKOに参加する際に満たすべき条件で、（1）紛争当事者間で停戦合意が成立（2）現地政府や紛争当事者の受け入れ同意（3）中立的立場の厳守（4）これらの条件が満たされない場合に撤収が可能（5）武器使用は防護のための必要最小限に限る。